

教育フォーラムEF-2

臨床薬学教育における米国臨床研修の現状と展望

The Present Situation and Perspects of the US Clinical Training for Japanese Undergraduate Students in Clinical Pharmacy Education

林 良雄¹, 野水 基義¹, 豊田 裕夫¹

¹東京薬大薬

6年制薬学教育体制の下で薬剤師を社会に輩出する時代となりました。次の課題はこの臨床薬学教育の高度化です。その一環として、薬学部生の米国臨床薬学研修を今回「教育フォーラム」として取り上げます。一步先をゆく米国における臨床薬学の現状を6年制薬学部生が自ら体験し、その内容・活動を理解することは、本邦における臨床薬学活動・教育に新機軸をもたらす源泉となり、意義深いものになると考えます。今後の臨床薬学の高度化のみならず、医療行政への薬剤師の関わりを一段と発展させる上でも肝要と言えます。臨床薬学者の米国社会における活動は大変闊達であり、その考え方の基本を学んだ方々が本邦の臨床に根付き活躍することは、本邦の医療行政に新しい潮流をもたらす原動力の一つとなるでしょう。本教育フォーラムでは、米国で臨床薬学研修を実施している薬系大学の中から3大学（東京薬科大学薬学部、武庫川女子大学薬学部、神戸学院大学薬学部）の方々に活動をご紹介いただくと共に、臨床薬学教育における意義と当該活動の課題と展望について討議します。また、米国の臨床薬学教育の中核を担っているカリフォルニア大学サンフランシスコ校薬学部（School of Pharmacy, UCSF）から Steven R. Kayser 名誉教授をお招きし、米国臨床薬学教育の最前線をご紹介いただきます。さらにパネル討議にも参加いただきます。